様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 ２８ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2009～2013
課題番号：２１５２０５６６

研究課題名（和文）日独通訳者養成から得られる知見・理論・専門用語データベース

研究課題名（英文）New findings and vocabulary list from seminars for german-japanese interpreters

研究代表者
相澤　啓一（AIZAWA, Keiichi）

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：８０１７５７１０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,200,000円、（間接経費）　960,000円

研究成果の概要（和文）：日独両言語間の通訳者養成は日本の高等教育機関では未だ制度化されていないため、本プロジェクトでは希望者を募って通訳者養成を定期的に実践する中で、通訳者が必要とする日独専門用語データベースの整備と、よりよい通訳のあり方をめざす理論化を目指した。本プロジェクト開始後、ドイツ・ハイデルベルク大学では日独英通訳者養成の修士課程が設立されたので、協力して資料収集と単語リストの共同開発、意見交換を行った。用語リスト等は今後も継続して整備されていく予定である。

研究成果の概要（英文）：There are no training courses for german-japanese interpreter in Japanese Universities yet. We have trained german-japanese interpreters in our own training seminars and collected various data such as technical terminology-list and common mistakes of participants. After the beginning of our research project, the master's course for German-Japanese interpreter training was founded at the University of Heidelberg. We are now working together with the University of Heidelberg on the special vocabulary list for german-japanese interpreter.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学、外国語教育

キーワード：通訳　ドイツ語　専門用語データベース　ドイツ語教育

１．研究開始当初の背景

日本語・ドイツ語両言語間の通訳者養成については、日本には未だ専門養成機関が存在しない。そのため私は、2002 年頃から、日独通訳者養成に向けて実際の通訳希望者に対するボランティアでの教育活動に従事してきた。他方、ドイツでは国際交流基金の援助のもとにゲルマースハイムで集中講座が行われ、やがて 2009 年秋からハイデルベルク大学に修士課程が設立されることとなっていた。少数でも優秀な通訳者を養成するために、日独の専門家が交流を深めて実際の教育に当たりつつ、教育プログラムをともに考え、とりわけ通訳者に必要な専門単語リストを整備する作業は、喫緊の課題であった。また、とかく我が国におけるドイツ語教育は初心者向けの議論に重点が置かれがちであるが、通訳者養成のような非常に高度な外国語教育に地点で語学学習者にどのような課題が待ち受けているかを分析することにより、日本におけるドイツ語教育に還元できるような知見が得られることも期待された。

なお、ここで言う通訳者とは言うまでもなく、高い外国語能力と高い母語能力、また（会議逐次通訳におけるメモ技術やブースに入っての同時通訳といった）高度な特殊技術を持つのみならず、政治・経済・自然科学・芸術等、各分野の専門家たちの間に異言語間コミュニケーションを成立させられるだけの極めて専門性の高い知的能力を前提とする高度専門職につく人のことである。通訳者養成と語学教育を結びつける議論は、とかくコミュニケーション能力を高める語学授業の一環として、シャドーイングなどの特殊教授法や聞き取り・会話能力などの特定の語学力重視に偏った議論に陥りがちであるが、通訳者がインプットやアウトプットの高い能力に加えて最も必要としているのは、あくまでテキストを素早く正確に理解する知的能力（総合的テキスト能力）である。本プロジェクトは、そうした能力を養成するのにどんな教育やスキルが必要かという観点から行われたものである。

２．研究の目的

以上のような状況認識に基づいて、本プロジェクトでは以下の目標に向けて活動を続けた。

①　通訳者が必要とする日独専門用語データベースの整備。

②　日独両言語間にかかわる固有の通訳上の問題の指摘の体系化

③　通訳・翻訳論への日独両言語の立場からの学術的貢献

④　通訳者養成教育プログラム・教授法と教材の蓄積

日独通訳者養成という課題については、言うまでもなく、単なる研究課題であるだけでなく、実践的意味も大きい。そこで、日本国内における日独通訳者養成のための特殊ノウハウを蓄積できるよう、新たに設立されたハイデルベルク大学通訳・翻訳学科の日独英担当教員たちとさまざまな形で協力・連携することも目標としてかかげられた。日独両サイドの通訳者養成プロジェクトが、相互訪問によって交流を深めることにより、教材の共同開発、教授法ノウハウの交換、今後の日独通訳者養成にむけてのインフラ整備や日独通訳に関する共同研究等も行うこととした。

３．研究の方法

日独通訳者になろうとしている人や実際に通訳者として活動している人への教育活動を通じて、本プロジェクトは、日独通訳の現場で実際に何が問題になるか、具体的・実践的に把握しながら、専門用語を収集し、誤訳などの問題点の体系的把握につとめた。個別具体的な問題については、研究会を開くたびに収集し、分析を進めた。

セミナーは、月例会に加えて毎年 1～2 回、２泊から３泊程度の集中セミナーを開催した。それらの詳細については
http://www.germanistik.jp/dolmetschag/index.html
に情報が掲載してある。またハイデルベルク大学の援助も得ながら、筑波大学ボン事務所主催により、2011 年以来毎年、ドイツにおいても３回の日独通訳者養成集中合宿セミナーを開催することができた。こちらについては
http://www.germanistik.jp/dolmetschag/blockseminar(dt)
に情報を掲載してある。ドイツでのセミナーでは、日本におけるのとは全く異なる環境での通訳者養成に接することができ、共通の課題だけでなく、それぞれの社会で通訳者に求められる異なる期待に応えることの必要性と困難さを認識することができた。

本プロジェクト最重要課題である日独専門用語データベース（単語リスト）については、以前からの蓄積を整備し、単語をほぼ倍増し、精度を高める作業を継続的に行なった。その際、ハイデルベルク大学通訳翻訳学科（日独英）においても同様のプロジェクトが萌芽的に進行しており、独自のインターフェースを開発していることが分かったため、長期にわたる折衝を経て共同のデータベース化することで合意した。現在は、データ整備作業を行っている段階であるが、近い将来にハイデルベルク大学のインターフェースから共同の専門用語に関する情報を発信できることを目指して、共同作業を継続しているところである。

科研プロジェクトは 2013 年度でいったん

終了したが、ハイデルベルク大学との研究・教育協力は 2014 年度も継続し、夏にはハイデルベルクのチームが筑波大学を訪れ、冬には逆に筑波からハイデルベルク大学を訪れるなど、専門用語リストの実用化を目指してさらなる協力作業を継続する予定としている。

４．研究成果

専門用語データベースは、ハイデルベルク大学において使い勝手のよい形で公開を予定しているが、現時点での本プロジェクトがとりまとめた約 46500 語に関するデータは
http://germanistik.jp/woerterbuch/2014.pdf
において公開している。

これらは残念ながら未だ網羅的な完成段階には至っていないが、プロ向けの専門用語集という性質上、個別情報の信頼性を完璧に高めることを目指すよりも、可能な情報をなるべく広範囲に拾って提示し判断は使用者に委ねるという形でも構わないという認識に傾きつつある。いずれにせよ、今後もその社会的ニーズに鑑み、この専門用語データベースの分野別整備と訳語の質的向上作業を続け、順次ハイデルベルク大学のサイトからも公開してゆく予定である。

また、個別の集中セミナー等における誤訳分析や重要ポイントは、各セミナーのプロトコルとしてまとめられてきている。それらの一部は、
http://www.germanistik.jp/dolmetschag/protokoll.html
に公開されている。これらの中には、日常的なドイツ語教育の現場ではなかなか気づきにくい貴重な知見が数多く含まれているので、近いうちに一般向きにまとめて整理・出版することを考えている。

本研究から得られた知見のドイツ語教育への還元については、学会等で折にふれて発表している。通訳者養成教育から必ずしも、日常会話などでの表面的コミュニケーション能力向上の礼讃が導き出されるわけではないことは、通訳者教育にかかわる教員たちの共通する認識であろう。むしろ通訳者養成にとって最も必要なのは、テキストの核心的な意味を素早くつかみ、それを分かりやすく表現し直す能力であり、その基本は「翻訳」能力である。その際にはとりわけ、テキストのインテンションを意識的・無意識的に指し示す「ディスコース・マーカー」の役割への着目が極めて重要である。「ディスコース・マーカー」に関する議論は、言語学分野では今も間投詞や一部副詞に限定する議論が主流であるが、通訳言語の分析からは、ディスコース・マーカーがそれよりもはるかに広い使われ方をしてさまざまなテキストに遍在していることを見て取ることができる。

近年のコミュニケーション重視の語学教育の中で、翻訳能力を育むべき「訳読」の授業はとかく「古めかしい教育法」として軽視されがちであるが、テキストを意味の上から迅速かつ正確に理解する能力を獲得することが、成人になってから学習を開始することの多い第２外国語としてのドイツ語教育にとって決定的に重要であることは疑いない。CEFR(欧州標準参照枠)に翻訳能力が判断基準としてあげられていないなど、語学能力全体の中の翻訳能力の位置づけは近年貶められる傾向があるが、外国語の知的な学習法にとって翻訳が極めて有効であること、しかし授業における有効な翻訳の活用のためにはいかなる翻訳が目指されるべきかに関する新たなコンセンサスが必要であることは、本プロジェクトを通した重要な結論である。それについて、また、翻訳に関する教授法を通訳教育のノウハウを利用することによって効果的に確立できることについては、本研究により得られた知見をもとに、今後可及的速やかに印刷物として公開する予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　３件）

(1) 相澤啓一、 Worttreue oder Äquivalenz? in: Maeda Ryozo (Hrsg), Transkulturalität, Identitäten in neuem Licht im Auftrag der Japanischen Gesellschaft für Germanistik und in Zusammenarbeit mit dem Redaktionskomitee des Dokumentationsbandes der Asiatischen Germanistentagung 2008, 2012, S.242-247. 査読あり

(2) 相澤啓一、 Wie soll Deutsch an den Universitäten „gelernt“ werden? in: Koreanische Gesellschaft für Deutsch als Fremdsprache in Zusammenarbeit mit Goethe-Institut Korea & National Research Foundation of Korea (Hrsg), 14. Internationales Symposium, Aktuelle Aspekte des DaF-Unterrichts in Korea, 2012, S. 10-18. 査読なし

(3) 相澤啓一: Fremdsprachigkeit und Fremdkulturalität. Wider die kulturwissenschaftliche Metaphorisierung der Übersetzung, in: Christine Ivanovic / Yamamoto, Hiroshi (Hg.), Übersetzung - Transformation:Umformungsprozesse in/von Texten, Medien, Kulturen, Königshausen & Neumann, S.57-63, 2010 査読あり

〔学会発表〕（計　１件）

(1)　相澤啓一:Wie soll Deutsch an den Universitäten „gelernt“ werden? in: 14. Internationales Symposium der Koreanischen Gesellschaft für Deutsch als Fremdsprache, April,6th, 2012、韓国外国語大学校（大韓民国）

〔その他〕
ホームページ等
専門用語データベース
（ http://germanistik.jp/woerterbuch/2014.pdf ）

６．研究組織
(1)研究代表者
相澤　啓一　（AIZAWA, Keiichi）
筑波大学・人文社会系・教授
研究者番号：　80175710